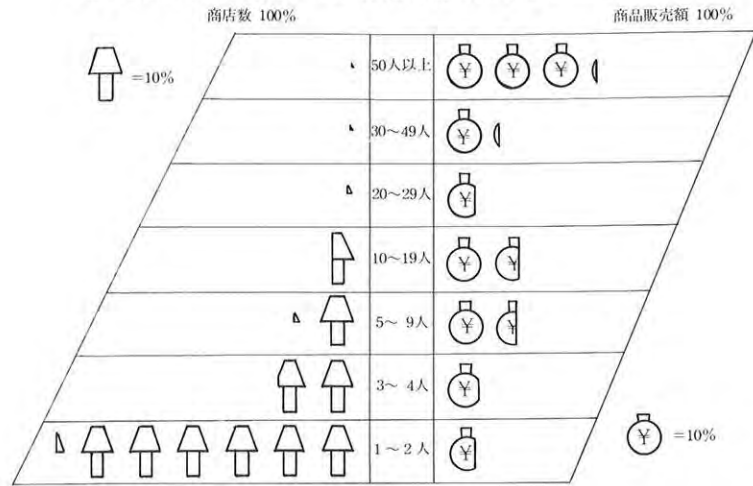


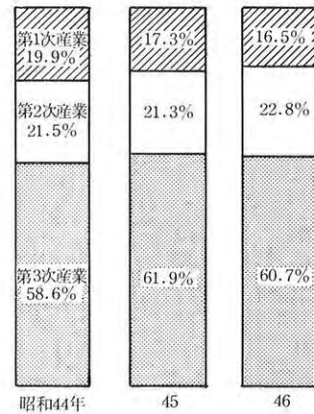
すこしは海岸の人の身になって

熊本県の第3次産業の現状

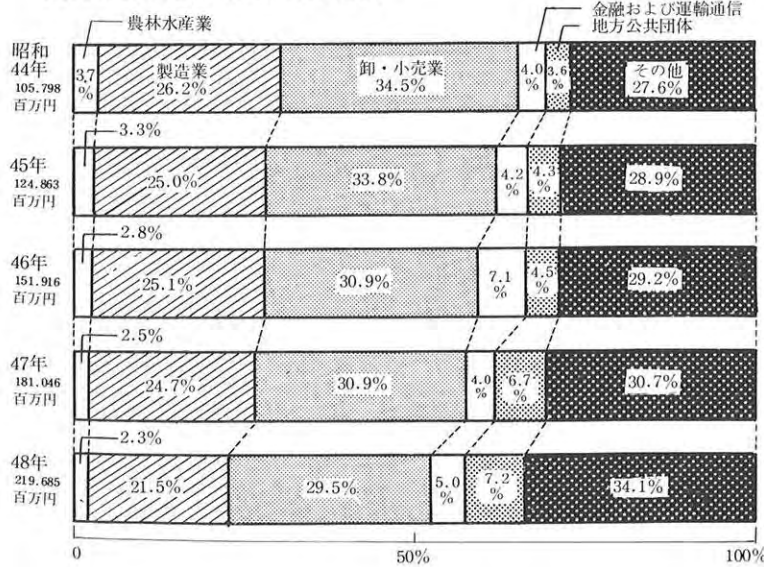
従業者規模別商店数および年間商品販売額の構成 (昭和47年)



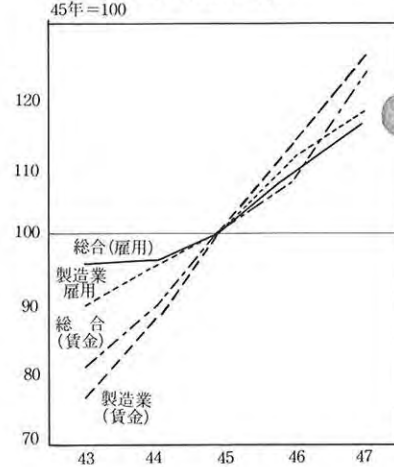
産業別県内純生産



銀行の業種別貸出残高の推移



雇用および賃金指数



▲天明町川口地区

▼海路口地区



海岸清掃

真夏の太陽の下、入道雲を背に受けて水しぶきをあげる海水浴。都会の人は近郊の海岸へドツと繰り出しています。遊泳中に潮の流れにのって自分がいつのまにかプラスチックのボトルやサンダルの片方、空かんや木ぎれ、ビニール袋、果物の食べかすなどの真ん中に居る経験をした方は少くないでしょう。これらのゴミは干潮になると海岸に打ち上げられ、ごらんのような惨状となります。

これは誰かが捨てなければ、このようにはなりません。夏を前に天明町川口地区、海路口地区の漁協幹部、関係者をはじめ、地元民有志約五十名は、海岸清掃のため二日間の勤労奉仕をしました。手のほどこしような惨状にあきれながらも、黙々と進めました。どうか一つでも無難作りにゴミを捨ててくれないようにと祈りながら。